

平成30年度（H30.4月－H31.3月）学 校 評 価

◇ 評価点は、Ⅰ～Ⅸの 카테고리ごとにある各項目を、〔3：あてはまる 2：ややあてはまる 1：あてはまらない〕と採点し、その平均点として表したものである。各カテゴリーの点検内容については別紙公開の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参照。

カテゴリー・項目数	自己評価	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的 (11項目)	評価点〔2.90〕	評価点〔3.00〕
	教育理念・教育目的は学生にとっての学修の指針となるように明示されているが、多様化(生活過程, 学習環境, 学習習慣, 学習意欲, 学力等)する学生への教育のあり方等については、引き続き検討していきたい。教員は常に“学生観”の見直しが必要であると考えます。	現在の学生像からディプロマポリシーも作成されている。項目4-2については「3:あてはまる」でよいのではないかと。
Ⅱ 教育目標 (7項目)	評価点〔2.71〕	評価点〔3.00〕
	看護基礎教育と継続教育との一貫性を保障するためには、看護基礎教育の終了時に獲得していかなければならない能力を明確にし、具体的な教育目標を設定していく必要があり、ディプロマポリシーを検討した。引き続きカリキュラムポリシーも検討しカリキュラム改正に備えたい。	教育目標について、大変厳しい評価をされていると思う。新カリキュラムとなった時には、再検討の必要性はあるかもしれないが、現段階では明確な目標として表現されているので問題はない。
Ⅲ 教育課程経営 (31項目)	評価点〔2.96〕	評価点〔2.96〕
	平成30年度は教員1名育児休暇、1名が教員養成講習会に参加のため1名の代替教員を確保し教育活動を行った。担当する講義及び実習時間数も増え教員の負担が大きくなった。	働き方改革の問題もあり、学内のみで解決していくの限界がある。静岡市として教員の確保、環境整備等に取組んでもらえるよう現場から働きかけていきたい。
Ⅳ 教授・学習・評価過程 (17項目)	評価点〔3.00〕	評価点〔3.00〕
	学生から受ける講義・演習科目の授業評価表を新しくし、授業改善に取り組んでいる。臨地実習評価表もすべての実習で形成的評価表を取り入れた。研究授業を2名(2科目)が行った。研究授業を通して、学生に対して効果的な教育・指導を行えるように教員間の協力体制を整えている。	自己評価の内容を承認
Ⅴ 経営・管理過程 (36項目)	評価点〔2.88〕	評価点〔2.88〕
	本校の設置目的は、地域医療に貢献する看護師養成である。卒業生の多くは静岡病院を始めとする市内の公的病院に就職し活躍している。昨今、医療を取り巻く環境は変化し看護師に求められる役割は拡大し、特に在宅医療の分野での活躍が期待されている。急性期医療に留まらない広く地域のニーズに応える看護師養成が求められている。本校が置かれている現状について、養成所設置者－管理者－教職員の認識を一致させ、目指す方向が明確となるよう情報収集、情報交換に努めたい。	病院職員だった頃の感想だが、貴校の卒業生はしっかりしていると感じていた。静岡地域に養成校も増え学生確保の困難さもあると思うが、魅力ある学校にして多くの学生が学べるように整えてほしい。
Ⅵ 入学 (2項目)	評価点〔2.50〕	評価点〔2.50〕
	18歳人口の減少、看護系大学の増加の中、入学希望者の確保には危機感を持って取り組んでいる。2019年度入学生は、辞退率が高く定員数(入学者37名)確保することができなかった。入学者選抜方法の妥当性について検証が必要である。	自己評価の内容を承認
Ⅶ 卒業・就業・進学 (8項目)	評価点〔3.00〕	評価点〔3.00〕
	看護師国家試験の合格率は10年連続100%であり、卒業時の教育水準は維持できている。2年次の臨地実習科目で単位を落とし原級留置となる学生が見られている。卒業生の活動状況を調査した。教育活動の評価、改善につなげていきたい。	自己評価の内容を承認
Ⅷ 地域社会／国際交流 (10項目)	評価点〔2.60〕	評価点〔2.60〕
	災害発生時、地域のニーズに応じることができるよう、学生の災害応急処置技術の向上、学生間の連携強化を目的とした防災訓練を実施した。	自己評価の内容を承認
Ⅸ 研究 (3項目)	評価点〔2.33〕	評価点〔2.66〕
	看護専門学校倫理審査委員会を設置し倫理審査を行う体制は整っている。教員の研究活動を保障できるまでの支援体制は整っていない。	現在の環境の中では、よく研究活動に取り組んでいる。実習施設等にも働きかけ共同研究にも取り組んでほしい。

◇学校関係者評価会議 平成31年4月18日 本校会議室で開催

委員長 望月 章子 (一般社団法人日本看護学校協議会理事)
副委員長 櫻井 郁子 (公益社団法人静岡県看護協会)
委員 松村 美和 (静岡市立静岡看護専門学校後援会会長) 欠席
委員 池谷 綾子 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院副看護部長)

事務局 渡辺 暢子 (副校長)
萩原 直行 (事務長)
瀧 泉 (教務長)
松永 貴子 (技監)
赤堀 美智子 (技監)